

平成27年度FD/S D研修実績報告

第1回：期日：平成27年11月12日（木）

「利益共有型中長期インターンシップとコーディネーター専門人材」

林麻貴（Maki Hayashi）

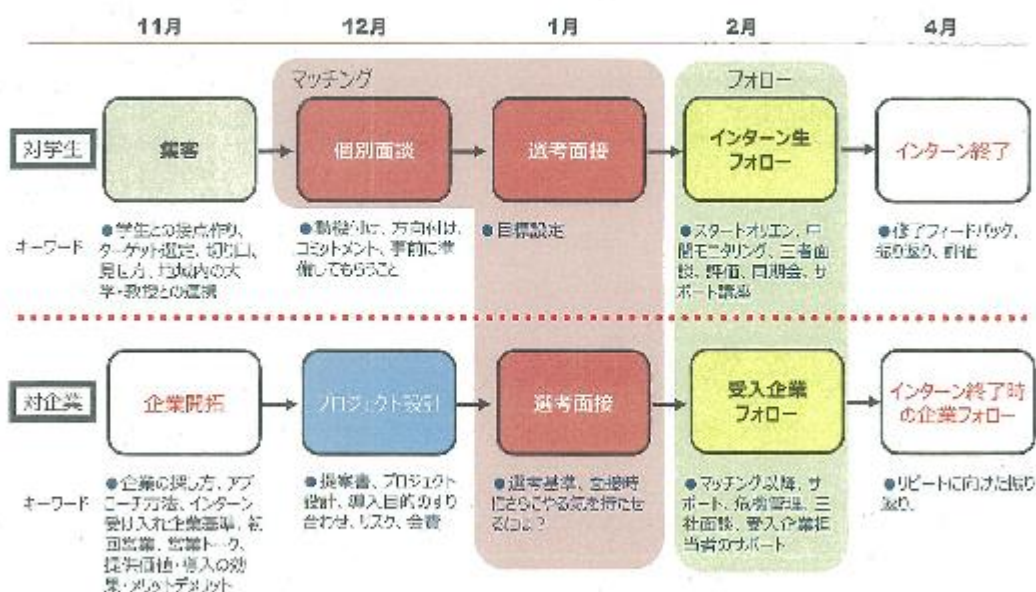
一般社団法人フミダス コーディネーター

（フミダスでは3年目です）

企業開拓・プロジェクト設計・学生集客
学生選考・学生企業フォロー・研修設計等
簡単に言うと全てをやっています。

©2014 Fumidas All Rights Reserved. 1

基本的なコーディネーター業務（春休みに実施する場合）



©2014 Fumidas All Rights Reserved. 2

➤ インターン説明会、選考会、エントリーシートの作成など、インターンシップに参加する上でより意識を深め、向上心を高めていく。(目的と目標の明確化)

1. 大学生生活充実セミナー 2. インターン説明会 3. エントリーシート 4. キャリア面談 5. 集団面接 6. 事前面談 7. 企業面談



- 弊社の学生スタッフ主催
- これからの社会や自分の将来を考えた時、今の大学生活をどう過ごすかを考えてみる機会の提供
- 本気で社会への挑戦
- 社会人2名をお呼びし、社会から見た今の学生について



- 社会の担い手となるチチャレンジャーの育成というコンセプトを伝達
- 期間限定正社員という位置づけ
- 成果にコミットするという動機付け



- エントリーシートの作成を通じて、改めて自己の成長目標と組織への貢献目標を整理



- 本当にインターンをやりたいのかの確認
- 最適なインターン先はどこかの意思決定をサポート
- インターン期間中の成長目標設定をサポート



- 目的や目標の言語化(自分自身で話すことで、当事者意識を芽生えさせる)



- インターン先決定後、担当コーディネーターとの面談(企業面談の準備)

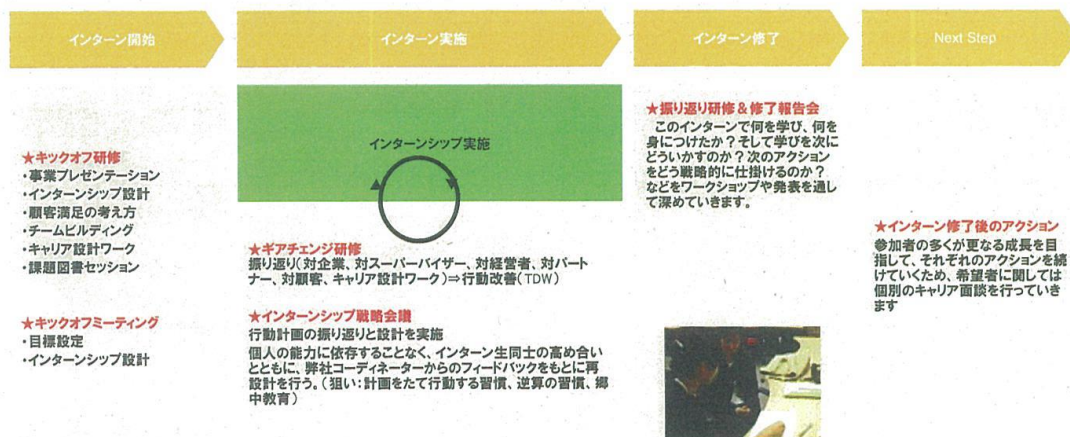


©2014 Fumidas All Rights Reserved.

3

研修プログラム

● インターンスタート後の各種フォローを通じて、自己成長につなげる



研修全体のテーマ:生きるスピードを早め負荷をかける、何を変えたか・影響を与えたか目標設定と振り返りを徹底することにより自己肯定感を高め成果へ繋げる

評価制度: 常時、その学生への評価(成果、態度に対する)をフィードバックとして頂きながら、行動改善に生かします

■ 集合研修を通じて、より高い成果をだしたロールモデルを見せ、**成果志向・課題解決志向・経営者視点への転換**を促すと共に、ワークショップや個別面談を通じて、具体的なアクションプランに落とし込むことを徹底。

■ 同じ時期に、他の会社でインターンをする仲間との**切磋琢磨の関係性**を醸成。

4

生活の基盤である仕事をどうするか？



弊社のご紹介

実践型インターン

新しい挑戦の機会

**地域の未来をつくる若者は熊本で働きたいと思っている。
しかし実情を知らない。力もない。企業も人次第。
意識ある若者と企業がよりよく育ち合う仕組みがないか？**

熊本の企業の99.9%が中小企業

●総務省「平成21年経済センサス基礎調査」によると、熊本県における企業57,308社の中で、中小企業が占める割合は57.226社、全体の99.9%を占め、中小企業は、熊本の経済や雇用を支える何物にも代えがたい大きな社会基盤となっている。

多くの中小企業が人材の確保に苦労

●リクルートワークス研究所「第27回ワークス大卒求人倍率調査」によると、従業員1,000人以上の大企業では、大学卒業予定者の求人倍率が2005年～2011年に至るまで1倍以下で推移しているのに対し、300人未満の企業の場合は、2011年3月卒業予定者の求人倍率は4.41倍となっているなど、規模の小さい企業ほど人材の確保が困難となっている。

中小企業の悪いイメージが広がっている

●(社)中小企業研究センター「労働市場のタイ化と中小企業の新卒採用戦略」(2007年2月)によると、学生が中小企業の就職に抵抗がある理由として、「労働条件が悪そう(75.4%)」、「将来性・安定性に不安(64.6%)」、「仕事がつきそう(29.2%)」、「イメージが良くない(23.1%)」など、中小企業に対する悪いイメージが広がっている。

若者の企業志向としてやりがいのある仕事を求める傾向に

●一方、毎日コミュニケーションズ「マイコミ大学生就職意識調査(2010年2月)」によれば、学生の大手志向は依然強いものの、「やりがいのある仕事であれば中堅・中小企業でもよい」、「中堅・中小企業がよい」とする回答は前年度に比べ5ポイント以上増の47.2%となっており、やりがいのある仕事であれば中小企業でも働きたいという若者の志向は増えている。

熊本の若者はほとんどの中小企業を知らない

若者からの就職に関しての相談などを数多く受けるが、大手求人フェアに出展している熊本の企業以外はほとんど知らないまま、東京の大都市に就職するケースを数多く目にする。

©2014 Fumidas All Rights Reserved

6

インターンシップ体系比較



弊社のご紹介

実践型インターン

新しい挑戦の機会

実践型インターンシップ		分類	短期見学・研修型インターンシップ	
長期型	中期型		研修型	見学型
3ヶ月～12ヶ月	1.5ヶ月～3ヶ月	期間	1ヶ月前後	1～2週間
課題解決 プロジェクトマネジメント	課題解決	内容	業務体験	業務見学・座学 シャドウイング
プロジェクトリーダー 特定業務責任者	プロジェクトスタッフ 特定業務アシスタント	社内位置付け	研修生	研修生
プロジェクトの成功 特定の役割の遂行	特定の課題への貢献	学生への期待	貪欲な学習意欲 学生ならではの意見	貪欲な学習意欲
業務生産性の向上 特定課題の解決	業務生産性の向上 組織文化への影響	受入側の目的	社会貢献 採用活動の一環 マーケティング	社会貢献 採用活動の一環
ベンチャー企業、NPO 大手企業新規事業部	あらゆる機関で 実施可能	主な受入先	大手企業 行政が中心	大手企業、専門事務所 行政が中心
問題発見・解決能力 自律的キャリアデザイン 起業家的行動特性獲得 (達成意欲、柔軟性、主体性、リスク管理など) プロジェクトマネジメント	問題発見・解決能力 企画提案能力 自律的キャリアデザイン	人材育成目標	職業意識醸成 仕事への理解 刺激(問題意識)	職業意識醸成 仕事への理解 刺激(問題意識)

©2014 Fumidas All Rights Reserved

12

実践型インターンの定義と考え方

弊社のご紹介

実践型インターン

新しい挑戦の機会

- ▽ インターンシップとは、「期間限定の正社員」（心構え的に）
- ▽ 学生・企業共に「市場価値のあるアウトプット」を目指す
- ▽ 大切なことは結果ではなく、その「意欲」と「視野・視点」

- × 受け身ではない。教えてもらうのではなく、働くこと・価値を生み出すことを通じて何かを学ぶ。
- × やる気のあるアルバイトではない
- × 表面的（良い人材と出会うためだけ）な採用プロセスの延長ではない

「経験」「スキル」の乏しい学生に、真の現場に触れ、
挑戦していく機会（チャンス）を創出

◎ 実践型インターンシップ定義

在学中の学生が、一定期間、ベンチャー企業や大手企業新規事業部のような少数精鋭型組織の中で、組織の発展に資するプロジェクトや課題の解決に取り組む実務活動。

自分の専攻や将来のキャリアに関連した分野において、主体的に役割を果たすことを通じて、起業家的な思考や行動の特性を身に付け、また大学生活および自律的キャリアデザインにフィードバックすることを目的とする。

14

実践型インターンの定義と考え方

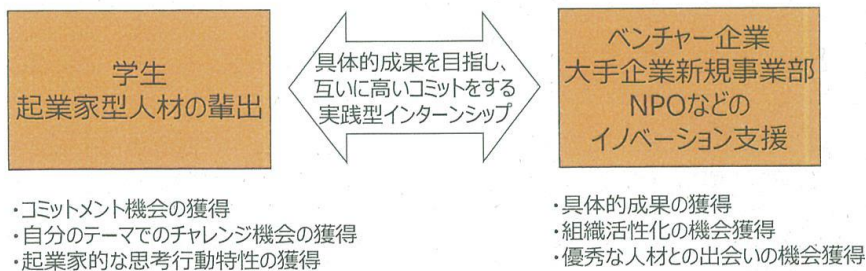
弊社のご紹介

実践型インターン

新しい挑戦の機会

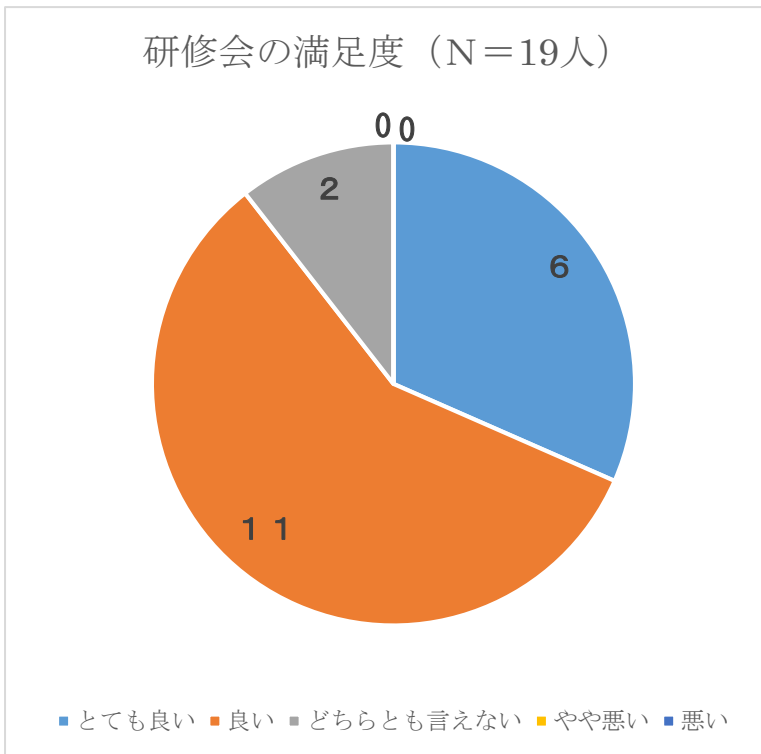
- (1) 若手人材に対し、起業家的な行動の機会を提供することを通して、自ら主体的に価値を創出していく起業家型人材を輩出していくこと
- (2) 若手人材を登用することで、ベンチャー企業、大手企業新規事業部、NPOなどのイノベーション（事業開発・組織開発）を支援すること

実践型インターンシップが追求する学生と企業のWin-Winモデル



15

【アンケート結果 抜粋】



1. 特別講演の内容はいかがでしたか。またその理由をお書きください。

- ・COC+事業でこれから取り組む実践型インターンシップの内容がよく分かってよかった。
- ・学内の業務の進め方を考える際、学外組織の取り組みや視点は参考になる。学生と接する際、学生以外の観点（企業、社長）を含めた対応をするヒントになった。
- ・実践型インターンシップが学生を成長させるキッカケになるということが理解できました。大学だけで実行するのは難しいと思いました。
- ・コーディネーターの重要性を認識できた。
- ・インターンシップの実施について「企業にお願いしない」という観点はポイントの一つと気づかされた。
- ・実際の具体例の紹介があり、中長期インターンシップが理解できた。
- ・インターンシップの意義や事例としてはよく理解できた。一方で、紹介された事例はある意味「成功事例」であり、それはそれとして失敗事例や大変なこと（企業側も学生側も）もあるのではないか？そのような内容も聞きたかった。（前半しか聴講できていませんが）
- ・大分大学でこのレベルのインターンシップが本当にできるのだろうかという思いを抱いた反面、これだけのことのできれば学生と企業の両者が大きく成長するだろうと思った。

2. 今後取り上げて欲しいテーマ等がありますか。

- ・具体的な学生の育成カリキュラム
- ・将来の地域活性化につながるような都市部へのインターンシップについて
- ・大分（九州）の企業の気づいていない（気づいていなかった）課題解決例
- ・コーディネーターの育成に関する事項
- ・FDで理系の専門科目のためのアクティブラーニングをうながす授業設計の方法

- ・ I P（知的財産）マナー（社会人の基礎知識として）
- ・ 工学部の事例を知りたい。
- ・ 失敗談も紹介してほしい。考になると思う。
- ・ 企業分野ごとの問題点、導入しやすい企業
- ・ 学生の動機付けのための手法？など、「入口」の部分はどうすべきか、通常の教育や研究の中でどう意識づけしていくのか？などの情報共有の機会

3. その他、ご意見・ご感想がございましたらお書きください。

- ・ 自分事業計画を用いて言語化する練習が大切であることがわかりました。
- ・ 内容が盛りだくさんだったので、できれば数回のシリーズにして開催してみてもよいのでは？企業で働いた経験のない教員に対しては、別途研修が必要ではないか？（インターンシップの内容が理解できないのでは苦しいのでは？）
- ・ 工学部 DP、CPとインターンシップの関係

第2回：期日：平成28年1月25日（火）
テーマ：変動するこれからの教育



教育改革を考える研修会

地「知」の拠点大学による地方創生推進事業

変動するこれからの教育

～中央教育審議会委員から見た地方大学の方向性～

平成28年1月25日（月）
13:10～14:40

会場：教養教育棟 35号教室（旦野原）

医学部看護学科棟 211講義室（挾間）

これからの日本の人口動態に対応した教育のあり方について、現在の子どもとその将来や日本社会の行く末を視野に入れた中等教育、高等教育のあり方、大学入試、大学教育改革の必要性、職業教育のあり方等に関する内容で、COC+事業の重要性と方向性を学びます。

講師

生重幸恵氏 キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 代表理事

【文部科学省】中央教育審議会 第8期中央審議委員

中央教育審議会 高大接続特別部会委員

中央教育審議会 実践的な職業教育を行なう新たな高等教育機関
の制度化に関する特別部会委員

中央教育審議会 地域とともにある学校の在り方に関する作業部会委員

講演会の終了後、講師を囲んで「学生のキャリア形成を考えるワーキング」を開催します。密な情報交換を期待しています。多数ご参加ください。

時間：15:00～16:40

会場：旦野原キャンパス 高等教育開発センター室1

大分大学

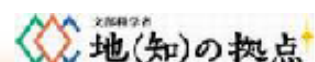
問い合わせ：大分大学高等教育開発センター
hecenter@oita-u.ac.jp

<参加者アンケートから>

所 属	職 名	本日のFD講演会についての感想、意見等
教育福祉科学部	教員	大分大学を中心とする教育改革の方向性について熱く語っていただき、感銘を受けた。この改革をどのように具現化していくかが課題である。大学の構成員ならびに社会全体にどのように理解してもらえるかを考えていくことが必要である。
教育福祉科学部	教員	求められる地方大学の方向性の全体像をわかりやすくお話しいただき、ありがとうございました。
経済学部	教員	熱意のある講演に共感する点、多々ありました。学生のモチベーションを上げる教育のヒントを得た気がしました。
経済学部	教員	大分大学をほめていただくのはよろしいのですが、大学間の違いについてのご理解がやや不足していらっしゃるようです。講師選びはどのようになされるのでしょうか。
工学部	教員	COC+に取り組む意義を理解することができた。
工学部	教員	講演の内容、主旨についてはよく理解できました。ただ、工学系だけではないと思いますが、対象は必ずしも地域だけでなく、全国も対象にする必要があると考えます。次世代に向けた教育をどの様にするのかは、もう一度考えなおさなければなりません。
工学部	教員	具体的な、細かな話（発散した）が多く、話のストーリーがつかみにくい。しかし、地域活性化にもつながる小、中、高の変化の方向（大きな）を感じることができた。これは、COC+の申請書内容と一致している。熱い教育への想いがよく理解できました。
工学部	教員	今後の大学教育のあり方と地方創生との関わりについて、非常に参考になる話でした。特に「キャリア教育は、生きる力を育てる教育である」というのは、目からウロコでしたが、その通りであると思いました。また初中等教育の現状についてもよく分かりました。ありがとうございました。
工学部	教員	大分の大学と地域について、いろいろのヒントを聞くことができました。Powerfulな講演で大変良かったです。
工学部	教員	小学校教育から高等教育、さらに、キャリア開発に関して、普段断片的に思いを巡らせていた内容が網羅された講演であり、考えを整理する一助として大変興味深いものであった。
UR Aチーム室	教員	未来も守るためにも教育は大切だと思いました。

医学・病院 事務部学務課	職員	大変興味深い内容で、こどもの現場、大分入学者選抜改革、キャリア教育の重要性等、役に立つ事例が多く提示されたと思います。挟間キャンパスでは、本研修会の開催の周知が不十分であったようで、参加者が非常に少なかったことが残念でした。
医学・病院 事務部学務課	職員	一時的に詰め込んでその後すぐに忘れてしまうような知識の習得でなく・・・というところがそのとおりだと思いました。北野教務委員長もよくおっしゃっています。大分大学、これからも頑張っていかなければいけないとつくづく感じました。
日本文理大学	教員	いろいろな面で共感できる内容だった。特に、小学校～大学までのキャリア形成と、その後の生涯までを見通す教育の視点が印象的だった。18歳で決める（決まる）分もあると思うが、大切なのは、そこまでのキャリアに続ける次のキャリアだという点など・・・こうした視点を導入するには、大学教員ももっと学外に出て多様な活動（ボランティアな分を含む）を体験する必要があると思う。
日本文理大学	教員	今日の教育改革の「なぜ」について、本音で語っていただき、中教審（文科省）の考え、スタンスを理解することができました。ありがとうございました。
学外	教員	教育の改革がなぜ今問われているのかが、明確になった。複雑な課題がある中で、何ができるのか、真の学ぶ力を目と耳と（脳）知恵によって本物のものとさせたいと思いました。熱心なご講演ありがとうございました。

第3回 COC+ 事業 FD/SD 研修会



教職員の皆様。実践的インターンシップに関与されている(社)フミダスの専門人材による、学生のやる気を焚きつける 講義を是非ともご参観ください。

以下、学生用

「もっと成長したい」あなたへ！
ホキで「挑む」自分にかわろう！

「やる気に火をつける」**専門家**による講座を試してみませんか？

「何のために生まれて、何をして生きたいのか？ 何のために学ぶのか？ このままで良いのだろうか？ やりたいことだけに満足して良いのだろうか？」と **漠とした不安** を心のどこかに持っていませんか？

大学卒業後に社会にでるということは、「**価値の消費者**」から「**価値の創造者**」になることです。皆さんは何の生産者になるのか **覚悟** はできていますか。**志** は持っていますか？

この言葉が刺さった(ピンときた)人は、是非、参加してみてください。

▷講 師：(社)フミダス 代表 濱本伸司、チーフコーディネーター 林麻貴

▷日 時：2016年 **1月27日(水)** **14:50~16:20**

▷場 所：大分大学 **工学部 104号** 教室

▷対 象： 学生（**全学部、全学年**）、教職員

▷申し込み方法： 当日の飛び込み参加が可能です。学生のみなさんは、できれば、事前に下記のCOC+推進係まで電話かメールでご連絡ください。

▷問い合わせ先：大分大学 研究・社会連携部 社会連携推進課 COC+推進係



大分大学

TEL: 097-554-7913 email cocsuishin@oita-u.ac.jp
もしくは、工学部 応化 石川雄一 (554-7907)

<受講生の感想>

A：本講演では、濱本さんと林さんのお二方からの話を頂いた。

働くは昔、別字で「傍楽」という字があり人を楽にしてあげることが大切であるということは共通して話されていた。この考えは、初めての概念でとても共感できた。自分が楽するために稼ぐのではなく人を助けるために、自分の価値を出してその対価としてお金を頂き、結果的に自分も楽しくなるということであると自分の中で理解した。

また、何を提供して、どんな人を楽させてあげたらいいのか、を考え、自分の価値を提供することが大切だということ学んだ。私は、環境工学を軸にし今後の世界が直面する環境問題、惑星移住などに関する研究をし社会に貢献したいと考えている。つまり、化学の知識と技術を提供し環境に困っている人をクライアントとして自分の価値を生み出したいという思いがある。

社会に出るあたり、報・連・相が当たり前であるが、「～という結果になり、この結果で自分はこう考えるがどう思うか？」ということをつけ足すことでより発展した報・連・相ができるという内容では自分の今まで思っていたただの報告、ただの連絡、ただの相談とは違う次元であることを感じたので発展した報・連・相を扱えるように残りの学生生活でも実践していきたい。

濱本さんの講演の中に、就職はゴールではないという内容があった。就職はゴールではなくキャリアアップのための手段である。そのことを早く知るためにインターンなどでキャリアを感じることを勧められた。就活が始まりインターンに行く機会が増えるのでキャリアを考えるという点でも参加していきたい。

濱本さんが語っていた「人には無限の可能性があり活かすも殺すも自分次第。」ということ自分の可能性を生み出し、スキルを伸ばし就活に勤しみたい。

B：今回のフミダスさんの話をきいて、普段あまり聞くことの出来ないその人のキャリア開発や、キャリアアップを知ることや、何のために仕事をするのかということ考えることが出来ました。私の周りには、やはり同年代の人が多く、今社会にでて活躍している先輩などと会話することがほとんどといてありません。さらに、地方の大学だからというわけではありませんが、今まで3年間大分大学で過ごしてき、友達の間では傷の舐め合いのことが多いことに気づかされました。というのも、お話を聞く中で東京大学や、慶応大学などの偏差値の高いといわれる学校では昼食などの休み時間には友達同士、学生同士で自分の目標を語り、その目標実現するために何が必要なのかといった議題で互いに切磋琢磨し合うという話を聴けたからです。そのため、就職というものの捉え方が大きく異なり、私たちのような地方大学は就職することが目的となっていて、先ほど挙げたような偏差値の高いといわれる学校では就職でキャリア形成をし、自分の目標を実現するためにその会社に入ることが目的になっているという自分自身、頷いてしまうことを教えて頂きました。自分もお話を聞く前までは、とりあえず就職できれば、や、したいことをやっているところに行きたいということばかり考えていました。そのため、やりたいことはいろいろあるが、どれが一番やりたいのか、ということに関しては何も決まっておらず、業界すら決まっていない状態でした。しかし、先に聞いたことと、何のために、誰のためにその仕事をしたくて、何を提供したいのか。つまりは、自分はだれにどんな価値を提供したいのかということや、自分が働くことにより、助けたいその人はどうなるのか、といった今までよりも1歩も2歩も進んだ考え方を学ぶことが出来ました。

これからの社会は少子高齢化と人口減少による若者の数の減少、簡単な仕事の機械化が進んでいくというお話の中で、20年後私は仕事にまだ就けているのだろうかという疑問が生じて来ましたが、再来年度から働きだすときにしっかりと自分の目標を成し遂げるための就職活動を行い、キャリアをし

っかりと積んでいくことが出来れば、きっと突然の転職であってもやっていくことは可能ではないかと考えることが出来ました。そのためにも、今から自分が何のために、どんな人のために頑張り、仕事をしていきたいかをしっかりと考え、そのために、今何をしなければならないかをしっかりと見定めていきたいと考えることが出来ました。また、どんな人のためかというところは、困っている人という大雑把なものではなく、被災をしてしまいこれからの生活に困っている人や、精神的な疾患により悩まされている人、といったようにぐっと掘り下げて考えるようにしたいと思っています。そうすることで、より自分のしたい仕事についてのビジョンがわき、原動力となり、仕事に就いてお金をもらうということ以外のやりがいにつながっていくと思えました。

今回のお話で今までの甘い考え方を現実に目を向け、いますべきことを考えることで、正すことが出来たと思います。また、仕事の在り方についても新しく考えることができ、とてもいい時間を過ごすことが出来ました。

C : 今回の講演を聞いて、就職に向けて意欲がさらに出た。私が受けようと思っている職種はある程度決まってはいるが、様々な職種を受けてみようと思った。インターンシップも今はまだ行っていないが、業界を知るためにも行ってみようと思うようになった。自分の心の中に残る言葉や話をたくさん聞くことができ、講演に参加することができ非常に嬉しく感じている。

D : 今回の講演で、私が最も印象的だったのは、これから就職先を探す上で、業種や職種にこだわるのではなく、自分がどのようなことでどんな人たちを支えていきたいかが大事、ということです。今まで業種や職種でしか企業を判断していなかったのも、このような考え方は私にとって新鮮でした。

また、東大や早稲田といったレベルの高い大学の学生と、私たちのような地方の大学の学生との違いもすごく印象的でした。頭の出来や学力が違うだけだと思っていたので、普段から日本の在り方やこれから自分がどんな役割を担っていきたいかといったレベルの高い話をしていると聞いて衝撃的でした。馴れ合いの友達ではなく、互いに高め合っていける友人関係を育んでいきたいなと思えました。

E : 働くとは、どういうことかを考えさせられる時間であった。自らが他に与えたサービスの対価が賃金であるという言葉が印象的だった。労働はお金を得るための手段という考え方が決して間違っているわけではないが、仕事に対して向き合う姿勢を考えさせられた。他者がお金を払ってまでほしいと思える価値、サービスを提供することにこそ仕事の価値があるのではないだろうか考えるようになった。また、働くを「傍楽」と書いていたという話も感じるころがあった。傍らにいる人を楽にすると解釈することができるが、この傍らの範囲には顧客も含まれるのではないかと考えた。顧客に対してサービスを提供することが、働く価値とこの言葉からも読みとることができると思う。

自らの働き方を考えるとき、誰にどんな価値を提供したいかを考え、自分の軸を持つことが重要であると知った。今までは、漠然と今まで培ってきた化学の力を生かせる職に就きたいとしか考えていなかったが、その考え方が甘いのではないかと考えるようになった。学んできたことを使うのはあくまでも付属であって、顧客のターゲットをはっきりとさせ、化学の力を用いてどのように社会に貢献することができるかを考えなければならないと思った。そのためにも 1day ではなく、長期のインターンシップに行き、働くということを肌で感じる事が大切なのだ知った。今日の講演をもっと早い時期に聞くことができればよかったと思う。

F：今回講演を聞いて、自分の就活への考え方が変わりました。以前までは職種にこだわっていた部分があったのですが、そこだけにこだわるのではなく誰のためにどのような形で社会に貢献したいかを考えることが必要だと思いました。3年生の終わりではなく、1年生のときにこの講演を聞いておきたかったです。自分の人生の目標が達成できるところに就職したいと思いました。

G：今回講演をきいて、働くとはどういうことか、これからの社会に必要とされる人材とはどういう人なのかということが非常によく分かりました。特に働くということは自分が顧客に何を提供できるかということを考え、自分はこれならできるということを見つけ、自分軸を作らなければならないということには衝撃を受けました。自分は今まで、自分がやりたいことを重視して就職活動をしようと考えていたので、今回の話で自分は甘い考えをしていたのかもしれないと自覚させられました。

また、働くということを早めに経験したほうがよいということに関しても、自分が就職活動をするまでに聞くことができ非常に良かったです。特に、早稲田大学の学生の話聞いた時は焦りを感じました。自分は大学院に行くので、まだインターシップを多く経験する機会があります。だから、今回の話を忘れずに、インターシップはもちろん他の活動にもいろいろと挑戦し、自分を磨いていかなければならないと強く感じました。

H：フミダスさんの講演を聞いて、自分の就活に対する考えが大きくなりました。今までは就職さえできればいいと思っており、その後は何とかなるだろうと思っていました。この講演で自分がどれだけ甘い考えだったのかわかりました。そして、今の日本の現状を知り、改めて就活に対して、自分が何をしたいのか、誰のために役に立ちたいのかを考え、今後の人生のビジョンを考えながら就活にのぞんでいきたいと思いました。就活が終わりではなく、社会人としての始まりだと考えてこれから頑張っていけたらと思っています。

I：今回のフミダスさんの講演を聴いて、就活に対して今の時期はとても大切なんだな、と感じました。私は院に進学しますが、就活はいつかはしなければならぬ事なのでとてもためになりました。同時に少しでも興味を持ったことは本気で取り組んでいこう、と思ういい機会になったと思います。今回は私自身にとって、とても有意義な時間を過ごせたので良かったです。

J：今回フミダスの方の講演を聴いて、インターンシップの大切さや就職活動に向けての取り組みなどを学ぶことができ、就職活動に対してモチベーションが高まりました。フミダスの方は明確な目標を持って仕事に取り組んでいるということが伝わってきて、私もちゃんと目標を持って仕事をしたいと思いました。また、就職は企業に入社することが目的なのではなく、入社した後自分がどのようにして社会に貢献できるかということが大切だということを改めて感じました。私は、漠然と働いたらやってみようかといくつか考えていたけれど、人の役に立つためにはどんなことを提供できるかということまでは今まで具体的に考えたことがありませんでした。だから、就職活動が本格的に始まるまでの時間を有意義に使い、本当に自分は何をしたいのか、どのようなことができそうかなど自分を見つめなおす良い機会にしたいと思います。そして、自分なりの将来のビジョンを持って、きついことから逃げてなんとなく就職活動をするようなことがないようにしようと思いました。そのためにも興

味を持ったら積極的に行動し、自分の人生を自分の力で切り開いていこうと思いました。

K：今回のご公演は、非常に面白いものでした。おかげで、まず自分自身を見直そうと考えました。そして、自分自身を見直した結果、まだ明確な答えは出ていませんがしたい事を大まかに思い浮かべこれからどうすれば実現できるのかを考え始めました。ご公演を聞く前ではこのような事を考えて行動しようなんて考えてもいなかったです。今回のご公演のおかげで働く事に対して以前よりも明確にイメージを掴めるようになりました。だから、今回のご公演はこれからの私にとってとても貴重な体験になったと思います。ありがとうございました。

L：自分のやりたい仕事を考えるとき、だれの為に何を提供したいかを考えることが大切だということが分かりました。自分にしか出来ないことを社会から求められていると聞き、自分にしか出来ないことなんてあるのかなと思ったのですが、相手のことを思いやって、きちんと相手の希望を聞くことができれば、自然と自分の役割ややれることが見つかるのかなと思いました。

大学院に行くからインターンシップはまだ行かなくていいかなと思っていましたが、今日の講演を聞いて仕事をしてみたいという意欲が湧いたので、近いうちに行きたいと思いました。仕事をしてみないとその仕事が好きかどうか分からないという言葉を受けて、まずは社会に出ることが大切なのだということが分かりました。本気でいろんなことに挑戦して、自分なりのビジョンを見つけたらいいなと思いました。

就職活動は自分が思っている以上に大変で不安になると思うけど、自分の考えや理想像をしっかり持って、周りとも切磋琢磨していけたらいいなと思います。大学生活中にいろんな経験をしておくことの大切さを、今日再び考えることが出来たので、今日からまた一日一日大切に過ごしていこうと思えました。今日から自己PRを考えていたり、少しずつ就職活動の準備を進めていきたいなと思います。林さんの言葉はどれも納得がいきまじし、とても為になる話が聴けたなと思いました。自分も林さんみたいに、自分の考えを相手に上手に伝えられるようになりたいし、林さんのような女性になりたいと思いました。

M：フミダスさんの講演を聴いて、将来を考えるにあたりヒントを得る事ができました。

私は現在、どのような企業について何をしたいのかがイマイチ固まっていませんでした。うすぐ4年生に上がるにも関わらず、このままではまずいと焦りを感じていました。しかし、今回の講演で、「働く」という意味を考える機会を与えてくださったおかげで、自分の将来のビジョンを描く第一歩を踏めるようになりました。働くとは、傍楽とも読めるという事は、印象的でした。仕事は、人の役に立てる事ができて成り立つという言葉が心に響きました。

20年間、私は家族やたくさんの人に支えられ、いろんな人からのサービス（仕事）を通じて、今ここにいていけるんだと思います。その恩返しをしたいと思ったとき、40年間働き続けることを考えたら自分のやりたい事ができ、それによって人を助けるような仕事につきたい。と考えが変わってきました。今回の講演でいただいた言葉を胸に刻み、しっかり考えていきたいです。

N：先日生物有機の時間に、講演をしていただいてたくさんのことを学び感じる事ができました。講演の内容もですが、自分たちと年齢の近い方が、仕事にやりがいを感じながら講演をしてくださる姿

はとてもかつこよく、印象に残りました。私は、就職活動に対するやる気が以前よりもでてきたので、とても有意義な時間でした。

- ：就職活動をする上で、自分がどのように、何のために働きたいかをよく考えておくことは非常に大切なのだということを改めて感じた。今までは当たり前のように何の職に就きたいか、地元で働きたいか、そうでないかということを目安にして就活を考えていたが、今回の講演を聞きどういった人々のために、どのように役に立ちたいか、社会にどう貢献していきたいかを明確にして自分のものさし、軸を持つことが重要なのだと感じた。その軸をしっかり持つためにも、様々な企業や仕事に触れ、どのような取り組みをしているのかなどを知り、経験を増やすために様々なことに参加、チャレンジしてみることが大切だと思った。しっかり自分が持っている力が発揮でき、人や社会の役に立ててやりがいを感じるようになるように頑張りたいと思う。